2012年度報告書（研究員）

氏　名	古川直子
職　位	ＧＣＯＥ短時間研究員

研究概要

今年度は、フロイトのセクシュアリティ概念の特異性への着眼によって、精神分析の情動論、欲動論、自我論を再読し、フロイトにおける「無意識」という概念の解明につとめ、「他者への開かれ」を支える共同性の条件を再構成するという作業を進めた。精神分析における「無意識」という領域は、その独自のセクシュアリティ概念と密接に結びついている。精神分析における無意識とは、神経症の症状、夢、言葉遊び、失錯行為といった事象から仮構された、間主観的コミュニケーションからの剥落としての心的領域であるが、フロイトは性的な表象のみが抑圧されて「無意識」となることを強調することで、セクシュアリティと深く関連づける。すなわち、他者とのコミュニケーションからの「閉じ」としての無意識とは、「拡大」されたセクシュアリティと結びついた性的な無意識なのである。

今年度の研究では、フロイトがこの無意識という心的領域を「翻訳」という作業の失敗によって生み出されるものとして規定していることに着目した。この着眼によって、精神分析が社会学の自己物語論ときわめて類似した自己の構成を論じていること、そして精神分析の自己物語論の独自性が「翻訳の残余」としての無意識にあることを論じた。すなわち、フロイトの抑圧論は、翻訳（物語化）の頓挫をつうじて、無意識という心的領域が生み出されるさまを示すものであり、精神分析はこの「他者からの閉じ」としての無意識という領野に、他者への「開かれ」としての社会的なコミュニケーションよりもさらに根源的な他者との共同性を見るという点を明らかにした。

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

[論文]

「精神分析における自己の物語論的構成――「翻訳の残余」としての無意識――」（査読中）

「Ｓ・フロイトによる「性本能」概念の解体――精神分析におけるセクシュアリティ――」（査読中）